

28年度 氷見市教育総合センターだより 第6報

第2回 教育総合センター運営委員会

1月17日(火)

今年度も皆様方のご理解とご協力のもと、教育総合センター事業を実施してまいりました。ご支援を賜りありがとうございました。第2回運営委員会でいただきました貴重なご意見の一部を紹介します。

<平成28年度 事業報告>

研修会

生徒指導研修会：4回

学力向上研修会：4回

ふるさと学習研修会：4回

幼・保・小接続研修会：3回

今日的な教育課題に関する研修会：3回

教育セミナー：2回

その他、「仲間に学ぶ研修会」、「学校経営研修会」、「若手教員研修会：6回」

推進事業

心のケア推進事業

国際理解教育推進事業

学校評価推進事業

教育サービス事業

その他、「氷見の学力向上フロンティア事業」、「小中連携教育推進事業」、「『ひみっ子夢と希望』きらめき推進事業」

調査研究事業

生徒指導推進委員会

- ・ Q-U調査を活用した生徒指導の推進
- ・ 氷見市や各学校の実態に基づいた組織的・継続的な生徒指導の推進

学力向上推進委員会

- ・ 全国学力・学習状況調査の分析と考察
- ・ 小学5年算数単元確認テストの作成・配布
- ・ 「授業づくりノート」による実践と検証

ふるさと学習推進委員会

- ・ 「ふるさと氷見-デジタル版-」の制作・配布
- ・ ICT活用教育研修会の開催

小中連携教育推進委員会

- ・ 中学校区での組織的、計画的な実践の推進
- ・ 小中連携教育推進リーフレットの作成・配布

<平成29年度 事業について(協議内容の一部)>

○教員の資質向上や研修会について

- ・ 若手教員研修会は、普段、顔を合わせる機会のない先生方と悩みを共有したり、情報交換したりする貴重な場となった。今後も是非、継続してほしい。
- ・ 若い先生方を伸びやかに育てる研修を大切にしていきたい。
- ・ 教員の力量を高めるために、発問や板書等、基礎・基本を学ぶ研修が大切である。
- ・ 授業を公開することで、気付けないことに気付くことができる。授業を通しての研修は、とても有意義である。
- ・ 5月の早い段階での学力向上研修会は、全国学力・学習状況調査の直後ということで有効であった。
- ・ 現場からセンター等へ研修会を要請できるようにしていきたい。

○「ふるさと氷見」について

- ・ 「ふるさと氷見」は、素晴らしい資料である。全ての教職員にアピールしていきたい「ふるさと学習資料」である。

○国際理解教育、外国語活動(英語)について

- ・ 小学校での教科化に向け、これまでとは違った小中連携乗り入れ授業に取り組んでいきたいものである。
- ・ 小中連携教育推進事業のおかげもあり、氷見市は英語教育が進んでいると感じる。

○SSW等の派遣について

- ・ 子供の問題でも保護者の問題と密接に関係している事例が多く、人材の活用が重要になってきており、SSW等の人材派遣に感謝している。そのような視点を盛り込んだ研修も計画してほしい。

○その他

- ・ Q-U調査を分析する研修会が実施でき、有効であった。
- ・ 学校経営研修会の企画・運営について改めて見直していきたいものである。



第2回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会 2月21日(火)14:00～

下記の「いじめに関する講演会」に先立って、第2回いじめ問題対策連絡協議会を開催しました。事務局から、いじめ問題に対する体制の整備等について提案した後、関係機関・団体の平成28年度の取組と連携状況等を含めて協議しました。

＜協議内容の一部＞

- ・いじめは、なかなか早期には表面化しないこともあるので、認識を新たにしていく必要がある。
- ・学校環境は、昔と比べて大きく変化している。学童保育やスポーツ少年団など、いろいろなチャンネルを通して、いじめを許さない社会づくりをすることが大切である。
- ・大人に見放されたと感じている子供が問題を起こしやすいのではないかと。子供は日常の中で、大人に対してサインを出しているのだから、周囲の大人がキャッチできるようになればよい。
- ・保護者と子供、教師が話し合う機会、しっかり思いを伝え合う場をたくさん設ける必要がある。
- ・学童保育においても家庭環境に起因した、いじめに近いトラブルが起きていていると聞いたことがある。
- ・教師からの一言や不適切な対応が原因でトラブルになる事案もある。
- ・今後は、本協議会と「いじめ問題専門家委員会」の構成員、組織の違いを明確にしていく必要があるのではないかと。



「いじめに関する講演会」 開催

演題 「チーム学校によるこれからのいじめ対応のあり方について」
講師 富山国際大学子ども育成学部 教授 村上 満 先生
 2月21日(火) 15:00～

村上先生を迎えて、「いじめに関する講演会」を開催しました。村上先生は、子供たちを取り巻く環境の問題や発達障害、いじめ、不登校に関するデータ等を提示され、「チーム学校」の姿をSSWの視点から捉えながら、いじめ問題等に対応するための具体的な考え方や取組について話されました。

村上先生の資料から

<p>子どもを取り巻くあん・ぽん・たん問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の抱える課題が多様化、複雑化(放課後、メール等) ・生活課題(ひとり親家庭、DV、貧困)が学校生活にも影響 ・学校生活から生活課題が顕在化 ・児童・生徒を取り巻く環境に生活支援を行う必要性の増加 ・関係機関や専門職との連携が必要な包括的なケースの増加 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安心・安全を確保する学校環境づくり ⇒ 家庭や地域でのつながりづくり ○ 本音を言い合える関係づくりと使いやすい環境づくり ⇒ 本心・本当の自分の居場所づくり ○ 単純(時には短期)で、やさしい仕組みづくり ⇒ みんなが資源・みんなが支援の場づくり 	<p>SSWに求められるのは・・・</p> <p>カウンセラーではなく、ソーシャルワーカーという仕事である。</p> <p>⇒心理の専門家ではない、教育の専門家でもない ⇒福祉の専門家としての知識と技術 <small>科学的根拠に基づいた実践</small></p> <p>◇相談援助の理論と方法に基づく実践(EBP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチによる軽いフットワーク ・小さなケアマネと大きなケアマネ(修復・調整) ・応援団づくり(チームアプローチ) ・役割分担(ネットワークング) ・社会資源の改善・開発(ソーシャルアクション) 	<p>スクールソーシャルワークで活用する5つの耳</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 身を傾けて聴く耳 ② 安心・安全を図って聴く耳 ③ 関心を寄せて聴く耳・素直に聴く耳 ④ 感情を聴く耳 ⑤ 積極的に聴く耳
--	---	--

参加者の感想

- ・いじめ問題を単独で捉えるのではなく、家庭環境、貧困、発達障害等、様々な子供の背景が関連しているのだから、その対応にはチームで取り組む必要があることを強調されていた。SSWやSCの専門性を生かすことが、いじめへの対応に有効であることに改めて気付くことができた。
- ・いじめ問題に直面したときに、一人で抱え込まないようにし、サポートする周りの資源としてのSSWやSCと、積極的に連携していくことが大切だと思った。
- ・許される範囲で、具体的な事例を基に、どのように関わったのかという方策についても知る機会があればよいと思う。

ICT活用教育研修会（授業研究会・講演会） ～朝日丘小学校で開催～

1月25日（水）

授業研究会 提案授業 6年 道徳「九転十起のセメント王 浅野総一郎」
 指導者 朝日丘小学校 教諭 坂田和彦 先生

全体会 「ふるさと氷見ーデジタル版ー」紹介
 ふるさと学習推進委員会 教諭 中川明恵 先生（明和小学校）

講演会 講師 富山大学大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川春生 先生
 演題 「ICTを活用した授業づくりについて」

朝日丘小学校のご協力を得て、37名の参加によるICT活用教育研修会が開催されました。道徳の提案授業は、「ふるさと氷見ーデジタル版ー」の浅野総一郎に関する資料を使い、子供たちが主体的・意欲的に取り組む圧巻の授業でした。ICT教材を活用しながらも、「授業の主役は子供である」と授業者が話し、「夢や希望をもち、努力を続けよう」という主題に十分に迫ることができました。

講師の長谷川准教授は、「次期学習指導要領では、情報教育の充実やICT活用がますます求められ、子供たち自身のICT活用についても求められる」と話されました。様々な実践事例も示され、ICTの効果的な活用について学ぶことができました。

参加者の感想の一部を紹介します。

- ・ICTの活用により、児童生徒の学習意欲の高まり、主体的・対話的な深い学びにつながることを改めて感じた。
- ・デジタルコンテンツの活用だけでなく、発問、構造的な板書、主体的な発言場面、すべてが勉強になった。日々の授業実践や児童の追究意欲に灯をつけることの大切さを感じた。
- ・画像や映像に少しの工夫を加えることでより効果的な活用を図ることができることが分かった。「ふるさと氷見ーデジタル版ー」も、積極的に活用していきたいと感じた。



12月～2月 小中連携教育

中学校区ごとの計画に基づき、小中連携教育が行われました。その内容について紹介します。

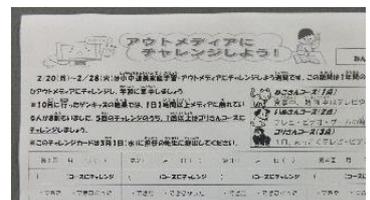
入学説明会



西部中学校では、児童と生徒と一緒に校歌を練習していました。北部中学校では、灘浦小学校を含め、4つの小学校から参加していました。

家庭学習週間

十三中学校区では湖南小学校と連携し同じ様式のカードを使ってアウトメディア週間を実施していました。



乗り入れ授業（6年 外国語活動・音楽科・学級活動）



十二町小学校では南部中学校英語科担当の先生から、発音がよいとほめられていました。灘浦小学校では灘浦中学校音楽科担当の先生と一緒に、きれいな声で楽しそうに歌っていました。宮田小学校では、西條中学校の教頭先生と中学校生活について話し合っていました。

小中連携推進委員会

南部中学校区では学習指導、生徒指導、家庭・地域連携の部会に分かれて情報交換が行われていました。





新 着 図 書 の 紹 介



氷見市教育総合センター

今年度、下記の参考図書を購入しました。ぜひご活用ください。

<教育論>

子どもたちの感情を育てる教師のかかわり ー見えない「いじめ」とある教室の物語ー	大河原美以 著	明治図書
怒りをコントロールできない子の理解と援助 教師と親のかかわり	大河原美以 著	金子書房
子どもをのばすアドラーの言葉 子育ての勇氣	岸見一郎 著	幻冬舎
嫌われる勇氣 自己啓発の源流「アドラー」の教え	岸見一郎・古賀史健 著	ダイヤモンド社
人を育てるアドラー心理学 最強のチームはどう作られるのか	岩井俊憲 著	青春出版社

<社会教育>

子どもが壊れる家	草薙厚子 著	文春新書
午後には陽の当たる場所	菊池桃子 著	扶桑社
あなたが変わるまで、わたしはあきらめない 努力する心の育て方	井村雅代・松浦学 著	光文社知恵の森文庫
井村雅代コーチの 結果を出す力 あと「1ミリの努力」で限界を超える	井村雅代 著	PHP研究所

<教育方法>

不登校は1日3分の働きかけで99%解決する	森田直樹 著	リーブル出版
ケース別 発達障害のある子へのサポート事例集 小学校編	上野一彦・月森久江 著	ナツメ社

<英語・特別活動>

「英語ノート」の表現がくり返し学べる 小学えいご大型絵本(DVD付) 1 How are you? 2 Where are you from? 3 What would you like? 4 Events of 12 are months 5 What can you do? 6 Where do you want to go? 7 What do you want to be? 8 What can you see? (8冊)	直山木綿子 監修 井上よう子 作 	学研教育出版
自分を鍛え、集団を創る！ 特別活動の教育技術	杉田 洋 著	小学館

※ 各種教育関係図書や月刊教育雑誌、教科書等も取り揃えています。

なお、事前に電話をいただければ、本人以外の方への代理貸し出しをするとともに、貸し出し時間等の相談にもなります。気軽に電話でお問い合わせください。

氷見市教育総合センター
TEL 0766-74-8221
FAX 0766-72-8122